

講義名	地域経済論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	丸山 亜希子		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

現在、日本では東京の一極集中が進み、他の地域はそれぞれ地域活性化に力を入れている。各地域を発展させるためにはどうしたらよいのだろうか。また、なぜ東京一極集中が進んでいるのだろうか。本講義では、まず経済データを用いて日本の人口移動および産業集積について過去から現在にかけての状況を確認する。そして、産業集積が都市や地域を発展させる上で非常に重要な役割を担っている事を学んだ上で、集積を応用した都市・地域発展政策を考える。また一方で、地域間格差などの日本が直面している地域問題の現状と課題についても理解を深める。

到達目標

- 産業集積が都市や地域を発展させる上で非常に重要な役割を担っている事を理解する。
- 集積の経済の観点から、将来の地域経済に必要な政策は何か、地域活性化のための政策について考察を与えるための基礎知識を習得する。

提出課題

レポートを複数回課す。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

必要に応じて総評・解説を、授業期間中に行う。

評価の基準

レポート課題100点

履修にあたっての注意・助言他

4月23日（木）の第1回の授業について、4月21日（火）までにRyuka portal の「講義連絡」にて連絡します。履修者は必ず確認して下さい。

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

授業中にレジュメを配布する。さらに知識を深めたい場合は参考文献を参照すること。
『地域経済学入門（新成）』山田浩之・徳岡一幸編、有斐閣コンパクト
『都市と地域の経済学』黒田達郎・田淵隆俊・中村良平、有斐閣ブックス
『都市・地域経済学への招待状（有斐閣ストゥディア）』佐藤 泰裕、有斐閣

授業計画

- イントロダクション 神戸を地域経済学的にみる
- 地域の概念（地域を経済学的に考える）
- 日本の地域構造（データでみる地域）
- 日本の人口移動（過去から現在にかけて）
- 東京一極集中とその問題点
- ストロー効果
- 産業の立地
- 都市の形成（1）規模の経済
- 都市の形成（2）集積の経済
- 地域経済学からみた地域活性化政策とは？（1）地方の現状
- 地域経済学からみた地域活性化政策とは？（2）政策事例
- コンパクトシティ政策
- 地域間格差
- 産業クラスター政策
- 神戸市の医療産業クラスター政策

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

配布資料を使って授業を行うため、予習はしなくても良いが、毎回復習として、授業内容の要点を自分の言葉でまとめておくこと（2時間/回）。また、数学のグラフで理解しなければならぬ内容を扱う授業回がある。このとき、数学の知識を忘れている人は自分で数学の復習も行った上で、授業内容を理解する必要がある（2時間以上）。このほか、定期試験前に復習が必要となる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考